

つたえよう つなげよう 安居の郷

安居公民館

1 安居地区の概要

福井市の中心部より西方約8km、東西に細長い14の町が接続している中山間地で、南側に未更毛川が流れ、ホタルの生育に適した区間では、夏の風物詩としてホタルの乱舞が楽しまれている。北側は、標高200mの安居山脈（通称西郷林道）が東西にそびえ、道路沿いに約800本のソメイヨシノが植林されている。

明治22年に市町村制がしかれ、今日の安居地区のもととなる丹生郡西安居村として誕生、昭和29年福井市に編入し現在に至っている。

昭和40年代後半に団地の造成が進み、それまで8町であったところ、平成19年には14町に増加し、福井市のベッドタウンとして発展している。また、平成7年から「福井市総合運動公園」の整備が進められ、平成21年までに、野球、ソフトボール、サッカー、グラウンドゴルフ、マレットゴルフ、テニス等の会場整備が終わり、多くの利用者で活気づく町に変貌している。

歴史をひもとくと、北堀貝塚をはじめ安田町足高山古墳群、末町須恵器の出土、本堂町の高雄神社神事等文化財として価値のあるものが多く存在している。

平成30年5月1日現在、人口は3,293人、世帯数は1,138戸となっている。

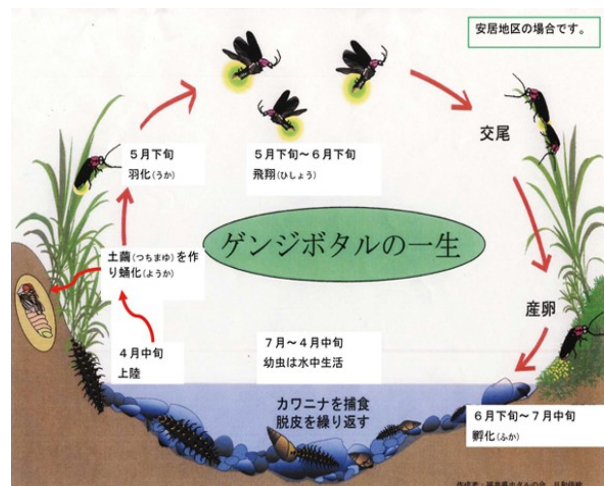
2 ホタルのついでにモアイ狩り

(1) 安居地区の環境への意識を高めるために

安居地区では、地域ぐるみでゲンジボタルとミズアオイの保全に取り組んでいる。「ホタルの光や花に触れると気持ちが動く。そこから自分の地域の環境への意識を高めていきたい」と安居公民館前館長は、地域の自然を代表する2つのシンボルにかける思いを語る。平成16年、地区を流れる未更毛川にも福井豪雨の影響が及び、翌年夏飛び交うホタルの姿がほとんど見られなくなった。地域の誇りの景色の危機に公民館主事や住民が動いた。ホタルの幼虫の飼育に詳しい人を講師に迎えて、ゲンジボタルの飼育についての勉強会を重ねた。平成21年から、公民館の郷土学習を支援する



ための学習として、「安居の里を守る会」を結成し、ゲンジボタルの幼虫の飼育と、餌になるカワニナの飼育をはじめ環境講座が確立した。しかし、平成20年頃に、土地改良にともなう水路工事などで地域内のホタルが激減してしまった。「安居の里を守る会」のメンバーが、安居地区内で捕獲したホタルの卵をかえし、幼虫を未更毛川に放す活動を続けた。また、平成24年からは未更毛川クリーン作戦を実施し、地域の宝であるホタルやミズアオイを育む自然豊かな川を次世代に残していく活動を続けている。その結果、平成29年6月には未更毛川でのゲンジボタル出現数は1100頭をカウントした。



(2) 安居地区の魅力を実感するために

6月、地区の地域資源を見つめ直す活性化イベント「ホテルのついでにモアイ狩り」(14:30~21:00)が本堂町一帯で開かれた。企画したのは、地区の青年団メンバーや市の若手職員有志らが結成した「チームモアイ」。「安居」だから、「あご」が特徴のモアイ像を地区のシンボルに掲げ、地区の地域資源を生かすまちづくりに取り組んでいる。このイベントは、公民館とチームモアイが連携して開き、安居小と東安居小の児童約80人とその保護者が参加した。「ムラロゲイニング」と呼ばれるゲームは、児童が16チームに分かれて地図を見ながら町内を巡回し、18カ所に掲げられた問題に挑み得点の合計を競うもの。また、公民館の呼びかけに集まった中高生が作った粘土のモアイ像150体が隠してあり、集めた分だけ得点が加算される。夕食は、公民館の「安居の里おもてなし塾」の講座生が調理した郷土料理「あぶらげめし」など5品を味わった。夜になると公民館と「安居の里を守る会」が環境保全に努めている未更毛川沿いでは、たくさんのホテルが宙を舞い、ほのかな光に児童は心を奪われていた。地区のまちづくりの中核を担う「安居ふるさと創り委員会」の男性は、「子どもがこんなに本堂にあふれるなんて本当に久しぶり。いいイベントになった。大成功だね」と目を細めていた。

3 オシッサマのついでにモアイフェス

「オシッサマのお渡り」は、安居地区の高雄神社の例祭として毎年10月の第2土曜と日曜に開かれている。宵の宮に祀られている猿田彦と天鈿女(オシッサマ)の二神が、約800m離れた待手の宮へお渡しする神事である。獅子頭をかぶった「オシッサマ」が、太鼓や童歌とともに町内を練り歩く。800年以上の歴史があるとされ、市無形民俗文化財に指定されている。「オシッサマのついでにモアイフェス」は、「オシッサマのお渡り」に合わせてイベントを行い、集客を図り、例祭や伝統的な郷土料理をPRし、安居地区の伝統や魅力を発信するイベントである。高雄神社前に設けられた販売所では、「安居の里おもてなし塾」の講座生が調理した「安居の里おもてなし膳」を販売した。「黒米ごはん」、「具汁」、「ごっと味噌」、「大根のおあえ」、「じゃがいもの三杯酢」、「季節の天ぷら」、「ホテルゼリー」で600円、これに「黒米くるみもち」、「あごころステ

ックバー」、「あぶらげめし」が付いて1000円で販売している。「数十年ぶりに食べた郷土の味。子どもの頃、おばあちゃんに作ってもらったのを思い出した」としみじみ語る人もいた。多くの人が、「こんなに郷土料理があるなんて知らなかった」とおいしそうに箸を進めていた。



4 終わりに

ホテルが乱舞する様子を觀賞してもらうためのホテルウィークをはじめて5年目になる。公民館に電話等で予約をしてもらい、「安居の里を守る会」のメンバーが区内を歩きながら、ホテルがよく見られる場所を案内するものである。

今年からは、「安居の里おもてなしツーリズム」という事業を立ち上げる。これは、公民館に駐車してもらい、①公民館の資料室を見学して、安居の歴史を知る、②「安居の里おもてなし膳」を食べて、安居の郷土料理を堪能する、③ホテルの幼虫飼育に関する話や未更毛川のクリーン作戦等に関する話を聞く、④ホテルの幻想的な光の乱舞を現地で觀賞する、という内容で実施する。地区内外の人を対象に、6月5日から6月11日に計画している。市政広報で参加者を募集する。

来年以降も、「地域の宝」をコラボした「安居の里おもてなしツーリズム」を充実発展させていきたい。

福井市内でホテルが自生しているところは何カ所かありますが、安居地区のように、公民館の教育事業としてホテルの幼虫飼育や成虫観察会を行っているところは他に例を見ないのではないのでしょうか。また、保育園、小学校、中学校と連携した教育事業が多いのも安居公民館の特徴だと思います。